

まことさん

自然に近い暮らしで自分を見つめ直し、 自分も自然の一部であることに気づいた

シャ乱Qのドラマーとして活躍される一方で、趣味のアウトドアが高じ、今や自然に関するイベントのナビゲーターや、環境省「つなげよう、支えよう森里川海」のアンバサダーを務めるようになったまことさんと、現在は、山梨県と静岡県にも生活の拠点を置きつつ、仕事で東京に通う生活をしているまことさんに、「自身のこだわりが詰まった山梨県の「自宅」、自然に近い生活で見えてくることや意識の変化について聞きました。

自然に触れて感じた、 こころの安らぎ

レコーディングやテレビの収録って、ほとんど窓がなく遮音されたスタジオでやるんです。シャ乱Qとしての活動が忙しかった時は、自然からシャットアウトされた環境にいるのが当たり前前の生活でした。きっとその反動だったの

でしょうね。僕はそのころ、旅に出ることが増えていきました。キャンピングトレーラーで国内を回ったり、海外の国立公園へ行ったり…。外界から遮断されたスタジオを飛び出し、自然に触れることで、こころが安らいでいくのを感じました。今考えると、この時期の旅の経験が「自然っていいな、自然の近くで暮らしたいな」

と考えるきっかけだったと思います。都会の生活では当たり前前に感じていた人口密度の高さや自然の少なさに、少しずつ違和感を覚えるようになり、都会に暮らしていることが自分にとっていかに不自然なことがわかってきました。自然と触れ合う旅が、都会の暮らしで擦り切れていた自分を見つめ直すきっかけをくれたんです。

森の中と海の近く、 そして都会の3か所暮らし

そういう経緯もあって、「東京を離れて自然に近い場所に家を建てよう」というのは、ごく自然の流れでした。妻（フリーアナウンサーの富永美樹さん）と二人で自然の近くで暮らせる土地を探しに行き、15年から山梨県の富士山の麓に住み始めました。この土地にした理由は、自然と人間がうまく共存できている環境があり、車を使えば東京まで一時間半程度で行けることです。

集落です。正直、不安もありましたが、いざ暮らし始めてみると、海の景観は素晴らしいし食べ物もおいしい。そして何より地域の人の温かさが本場にありがたく、どんどんと愛着が湧いていきました。結局、3か月の番組企画終了後も家をそのまま借りて生活することにしました。

そして今、山梨県と静岡県、仕事の拠点である東京の3か所で生活しています。富士山の麓はこもる場所。自分を省みる場所として最適です。薪を集めたり、草むしりをしたり、時には木を眺めながら過ごしたりと、自分の時間を満喫して癒されています。戸田は外に向かって開放する場所。地域の人たちのコミュニケーションを積極的にとりながら生活しています。生活拠点の3か所にそれぞれの役割があり、ちょうどいいバランスで使い分けています。

自然に近い暮らしで、 無駄を出さない生活に

自然の近くで暮らしてみても、環

境に対する意識は大きく変わりましたね。移住するまでは、土が何からできているか知らなかったですし、そもそもそんなことを考えたこともありませんでした。都会では当たり前のようにゴミとして捨てていた野菜クズや食べものの残りが、ここでは自然の中に放っておけばいざれ土に戻ります。自然と無駄を出さない生活を意識するようになりました。また呼吸も同じで、自分たちの吐く二酸化炭素を使って植物たちが酸素をつくり、それをまた自分たちが吸い、生きています。持ちつ持たれつ。いい関係があります。こういうことを考えていくうちに、自分自身も自然の一部だということを実感するようになりました。

その一方で、環境問題については、まだ語れるところまできていません。気温の上昇やそれに伴う生息する生き物の変化などは、もっと長期間暮らさないと見えてこないものなので、今、自分の体で検証しているところです。実際に自然に近いところで生活することで、見えてくる環境問題がある

と思います。

現在は、自然に関するイベントに関わったり、環境省の「つなげよう、支えよう森里川海」のアンバサダーを務めたりしています。以前から「自分が楽しいと思ってることをみんなに伝えたい」という思いで活動してきたので、今はもっと自然の楽しさや素晴らしいさを皆さんに理解してもらえように、きっかけづくりや情報発信をしていきたいですね。



まことさんがご自身で設計した薪小屋。ここに座って自然を感じるのが癒しの時間

Makoto

1968年大阪府生まれのミュージシャン。1992年に「シャ乱Q」のドラマーとしてデビュー。数々の楽曲を手がけるほか、テレビ出演やアウトドア雑誌にて執筆活動も行っている。近年では、里山里海の魅力を伝える「SATOYAMA SATOUMI movement」への参加や、環境省「つなげよう、支えよう森里川海」のアンバサダー、移住先のひとつである静岡県沼津市の第24期「燦々ぬまづ大使」を務めている。



「都会での暮らしも経験している分、自然の強さを肌で感じ、毎日新しい発見がある」と話す